

大館の歴史散歩

大館の旧石器時代

食と生活を
訪ねて ①

日本の地に「ヒト」が登場したのは、氷河期に海面が低下し、日本列島がアジア大陸と陸続きになったときであった。

五十万年から十五万年前の間の氷河期に最初のヒト(原人・旧人)が渡来し、十万年から一万年前の最も寒冷化が進んだ時期、おそらく2万年ほど前のヴェルム氷期に、多くのヒト(新人)の渡来があった。彼らとその子孫が日本各地に原日本人としての足跡を残した。

大館市内の松木高館平遺跡にヒトが住んだのは、二万年ないし一万三千年前のある時期で、そのころの大館地方は、現在の北海道北半部と同様にトドマツ、エゾマツ、チヨウセンゴウなどの亜寒帯針葉樹林が広がっていた。彼らは何を食糧としていたのだろうか。ナウマンゾウ、野牛(ハナイズミモリウシ)、オオツノジカ、ヘラジカなどは既に絶滅ないし急激な減少期にあった。マンモスは北海道だけに確認されていて、本州まで南下したかは不明である。彼らの狩猟対象は前述した大型獣の残存種と、次代の縄文時代の主要獣であったニホンカモシカ、

ニホンジカ、イノシシ、ツキノワグマ、タヌキ、キツネ、アナグマ、ノウサギ、テン、ニホンザルなどの中・小型獣であった。

植物資源も主要な食糧であったが、亜寒帯針葉樹林の真ただ中であつた大館地方では植物資源は少なかった。そうした中でチヨウセンゴウは収穫率、収量、栄養価が第一であつた。ほかにトドマツ、ハイマツの実も有用であり、コケモモ、イチゴ、クロマメノキなども採取できた。

一万六千年前以降の晩氷期に入るとやや暖かくなり、大館地方は亜寒帯針葉樹林と冷温帯落葉広葉樹の混合林が形成され、クリ、クルミ、ドンダリ、トチノキ、ブナなどやユリ、ワラビ、カタクリ、ヤマイモなども採取できるようになった。

当時の家は、草や木、そして獣皮などを利用した簡単なテント小屋のようなものだったと考えられ、そのためか住居跡としてはなかなか確認しにくいのが、特徴的な生活痕跡の一つとして「礫群」と呼ばれるものがある。こぶし大から人頭大の焼け石数十個で一群を構成

する遺構で、日本各地で発見されている。これは明らかに日常生活のための「火」を使用していた痕跡であり、調理施設であつたと考えられている。この施設で食糧の肉を火であぶったり、焼け石の上でバーベキューをしたりしたのであろう。食糧を煮るための土器はまだ発明されていない。

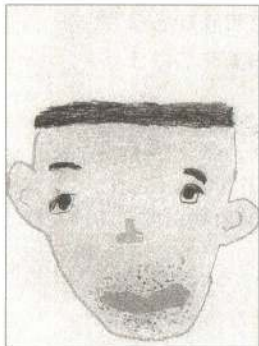
獲物を追って男たちが野山を駆け巡り、女たちは植物食糧の採取や調理、そして子育てをして家を守る。火を囲んでバーベキューをしながら、一家そろって楽しい食事をする姿が、大館地方に住みついていたヒトの日常の生活であり、食生活であつた。

市役所史跡探訪会

ちびっ子ギャラリー おとうさん



こんどうしずかちゃん
ジャスコにいったらラーメンをたべさせてくれるの



はすみけんすけくん
なわとびやてつぼうをしてあそんでくれるんだ



いしだあきのりくん
いっしょにファミコンをしてあそぶんだよ

天下町児童館

クイズ 広報 おおだてがヒント

▽問題

- ①5年度の「市民と語る会」で出された提言・要望の数は?
 - ②100歳を迎えられた菅原ハルさん。誕生日は何月何日?
 - ③酒林は何屋さんの看板として使われてた?
 - ④「ふるさと探検」号の申し込み受け付けは何月何日から?
 - ⑤文化会館主催事業、前進座の「母」。原作者はだれ?
- ▽応募方法
はがきに住所、氏名、年齢、性別、答え(例①-②-)を書いてこ

応募ください。

▽締め切り

5月27日(金) 当日消印有効

▽応募先

〒017大館市字中城20番地

広報おおだてクイズ係

※全問正解者の中から抽選で5人に、秋田犬のオリジナルテレホンカードを贈ります。

▽4月16日号の答え

- ①観光物産課②7年度③平安時代④マルメロ⑤4月23日

▽4月16日号の当選者

- ・小松俊治さん(田代町2区)
 - ・藤盛里加子さん(二井山)
 - ・橋本美知子さん(獅子ヶ森2区)
 - ・齋藤美和さん(御坂)
 - ・渡辺ツエさん(田代町4区)
- ※応募総数52、全問正解者49